

刊夕 日九拾月二

# 常 警 日 報 新 聞

定価 一部全額一ケリ金五拾銭 郵費別  
 廣告料 五號十二字 隨一行金五拾銭  
 日 曜 祭 日 の 翌 日 休 刊  
 行 務 部 長 人 別 川 崎 巡 文 治  
 行 務 部 常 務 長 藤 澤 孝 行  
 行 務 部 常 務 長 藤 澤 孝 行  
 行 務 部 常 務 長 藤 澤 孝 行  
 行 務 部 常 務 長 藤 澤 孝 行

## 『國い』本日』 の自序(三)

川崎君に呈す  
安倍季雄

そのあとがまた話の續だ  
母思ひ、親思ひの兵士の眞  
心にうたれて、思はず涙ぐ  
んだ倉本大尉を、より強く  
より深く、小さき聴衆の心  
に印象づけるために、わざ  
と聲を落して、

「うむ、さうか。い、話だ  
なア。隣はお母さんの身代  
りかお母さんの恩を忘れて  
はならないぞと、神様が、  
特につけて下さつた大切な  
記念物か。なるほどなア。  
……中隊長にもお母さんが  
あつた、お父さんもあつた  
其のお父さんは日露戦争で  
戦死され、お母さんは三年  
前に亡くなられて、中隊長

昭和八年  
の我が國  
輸出總額  
は約十九億圓之を前年  
比すると四億七千萬圓の  
増加である

はひとりぼつちだ。親孝行  
したい時には親はなし、親  
孝行は親の居る時にする事  
だ。上等兵はかういふ歌を  
知つて居るか。  
秋の日は山の端近し暮れ

ぬ間に、母に見えんいそ  
けわが胸

い、歌ぢやないか、お前達  
は毎月お母様に手紙を何遍  
書くか？なに、月に一回？  
少くないなア。今日から改  
めて毎日でも書け。今夜書  
くなら中隊長からもよろし  
くと申上げてくれ。あゝい  
、事を聞いた。中隊長も急  
にお母さんの顔が見たくな  
つた。之から急いで隊に歸  
つて隣を出して、久し振り  
で懐しいお母さんと思ひ出  
さう。ぢやア失敬！」

遠ざかり行く靴の音  
こゝでちよつとポーズを  
置いて、再び兩上等兵の會  
話になる。  
寒いから軍歌でも歌はふ  
といふので「道は六百八十  
里」を歌ふ。「山を遙かにな  
がむれば……」で小手をか  
ざして前面を見て、  
「おい藤澤、あの鐵橋の上  
を見ろ。レールの上を子供  
が……」といひも終らずそ  
の後から矢を射るやうに飛  
んで来たのは奉天行きの急  
行列車だ。二人は驚いて、  
あらん限りの聲で、  
「おい子供！ 汽車だア  
汽車だア、逃げろ〜」と  
絶叫しながら、鐵橋の上を  
かけ上つて、漸くの事で子  
供を助ける。事情をきいて  
見ると、三年前に別れた母  
をたずねて奉天にゆくとい

「生憎おれは文無しだ。」  
「きさまもかア……」  
川合上等兵も腕ぐみをし  
て考へこむ。  
「よし、いゝ事があるぞ  
さアホロノフ一緒に来い」  
川合上等兵は、いきなり  
ホロノフ少年を背中におぶ  
つてドン／＼ドンドンかけ  
出す。藤澤上等兵もあとか  
らドン／＼追ひかける。  
「参りましたのは支那人の  
古道具屋の店先です。  
そこで二人は、銀時計と  
古シヤツを賣つて、二圓四  
十五銭を得、そのお金を持  
つて停車場にかけつけ、奉  
天までの汽車の切符と、お  
辨當とお茶とお菓子を賣つ  
て、それをホロノフに持た  
せ、大急ぎで上りの汽車に  
のせてやる。  
「おいホロノフ！ ヘン  
を大切にしろよ、ヘンはお  
母さんの身代りだ。お母さ  
んに孝行するんだぞ。」  
「ヘンによろしく言つてお  
くれよ。」  
ホロノフも嬉しかつた。  
見も知らぬ日本の兵隊さん  
の情有難さに、涙をポロ  
／＼こぼしながら兩手に買  
つてもらつたお辨當とお菓  
子とお茶をもつて、汽車の  
窓から半身をのり出し、  
「日本兵隊さん、ありがと  
……ありがとあります。」  
汽車は出てゆく。見えな  
くなる。川合上等兵、藤澤  
上等兵は兵營に歸る。それ  
ツきり誰にも話をしなかつ  
たから、守備隊では誰も知  
らなかつた。

「生憎おれは文無しだ。」  
「きさまもかア……」  
川合上等兵も腕ぐみをし  
て考へこむ。  
「よし、いゝ事があるぞ  
さアホロノフ一緒に来い」  
川合上等兵は、いきなり  
ホロノフ少年を背中におぶ  
つてドン／＼ドンドンかけ  
出す。藤澤上等兵もあとか  
らドン／＼追ひかける。  
「参りましたのは支那人の  
古道具屋の店先です。  
そこで二人は、銀時計と  
古シヤツを賣つて、二圓四  
十五銭を得、そのお金を持  
つて停車場にかけつけ、奉  
天までの汽車の切符と、お  
辨當とお茶とお菓子を賣つ  
て、それをホロノフに持た  
せ、大急ぎで上りの汽車に  
のせてやる。  
「おいホロノフ！ ヘン  
を大切にしろよ、ヘンはお  
母さんの身代りだ。お母さ  
んに孝行するんだぞ。」  
「ヘンによろしく言つてお  
くれよ。」  
ホロノフも嬉しかつた。  
見も知らぬ日本の兵隊さん  
の情有難さに、涙をポロ  
／＼こぼしながら兩手に買  
つてもらつたお辨當とお菓  
子とお茶をもつて、汽車の  
窓から半身をのり出し、  
「日本兵隊さん、ありがと  
……ありがとあります。」  
汽車は出てゆく。見えな  
くなる。川合上等兵、藤澤  
上等兵は兵營に歸る。それ  
ツきり誰にも話をしなかつ  
たから、守備隊では誰も知  
らなかつた。

毎度有難うございます  
エビフライ  
ピフテキ  
洋食  
喫茶  
宴会  
コンパル  
666・ELT  
平塚前新道通り

一冊の代金で  
御希望通りな  
五冊の雑誌が  
自由に讀める  
川崎巡 回文庫  
電六三〇番  
(申込次第規則書進呈)

十銭日掛で  
蓄音器が買へます  
(此際申込の方にレコード十枚進呈)  
レコードはメトロ  
安い上に五錢券を付ける  
蓄音器の修理は實費でいたします  
春の宵にふさはしい  
名曲レコード(五枚一組)  
宣傳のため一晩十銭でお貸いたします。ハガキ  
で申込下さい。お電話頂いても順番が御座いま  
すからその日にお届け致し兼ねる場合も御座い  
ます。  
安いので奉仕する一坪の店  
平町四丁目  
メトロレコード店  
電話(呼)二一四番

病に勝て!!  
肺病、ロクマク、神経衰弱、營養不良、  
不眠症其他に……  
増強  
精血  
すつぽんむし焼  
平 田 町  
阿部薬舗

市 産  
土 産  
魚 問 屋  
店理代平命生本日本最優最  
榮 盛 賀 志  
(三一二電)目丁四平

# 花の景

## 滿蒙國防博覽會

### 着々と計劃進行

### 陸海軍省よりの出陳

### 既に三車に餘る

花の平町に一大偉觀を添ふる滿蒙と國防の博覽會は、地方人に對する我國の生命線たる滿蒙の智識開發と東亞の盟主たるべき帝國の國防觀念扶植の上に多大の成果を擧げ且つ平町の股脈に一大炬火を点すべく伊東一氏の手によつて計劃の大案成り過般來東京研精社の技術者來平、仲町々有地(産業博の跡)を會場に定め間口廿間、奥行六間の本館始め着々工事進行しつつあるが本館内を大別して三部門とし第一部門は滿洲事變を回顧する資料を蒐め、第二部門は専ら滿蒙紹介に當て、第三部門は國防の大系を示唆して餘さず既に陸海軍省よりは三車に餘る新兵器其他の資料が到着、會場の一隅に山を築いて居る、因に各部門の出陳説明は左の如くである

## 眼を驚かす

### 綺羅星の出品

#### 各部門の陣容成る

- 第一部**
- 一、國都新京大テオラマ場
  - 二、滿洲事變テオラマ八場面
  - 三、現代戰(我軍長城附近黃土嶺の敵陣に肉薄す)
  - 四、其他戰跡地名大地圖統計表、繪畫等を掲出する
- 第二部**
- 一、空襲下の炭鑛地帯場面
  - 二、要地防衛テオラマ場面(平町爆彈投下)
  - 三、其他圖表統計表を掲出する
  - 四、近代的大海戰テオラマ場面(磐城沖の大海戰、磐城沖雲煙遙かなる大洋)
- 第三部**
- 一、滿洲と産業の大場面
  - 二、滿洲と交通の大系を表現し各種物産の模型を作りて夫々の産地に配置し一目瞭然の産地を知らしむる如くし有數なる都邑には豆電球を取付け押卸装置となして觀覽者をして自由に試みさせる様工作す
  - 三、其他圖表統計表を掲出する
  - 四、其他戰跡地名大地圖統計表、繪畫等を掲出する

ト河川を利用の商業並に船運の盛況

チ滿洲國林産業の實況

リ綿羊放牧の實況

ヌ蒙古包と駱駝

ル滿洲鑛産工業の景況

右拾壹場面共背景に配するに切抜模型を以てテオラマ風となし各種色電球を用ひて照明す

ト河川を利用の商業並に船運の盛況

チ滿洲國林産業の實況

リ綿羊放牧の實況

ヌ蒙古包と駱駝

ル滿洲鑛産工業の景況

右拾壹場面共背景に配するに切抜模型を以てテオラマ風となし各種色電球を用ひて照明す

ト河川を利用の商業並に船運の盛況

チ滿洲國林産業の實況

リ綿羊放牧の實況

ヌ蒙古包と駱駝

ル滿洲鑛産工業の景況

右拾壹場面共背景に配するに切抜模型を以てテオラマ風となし各種色電球を用ひて照明す

ト河川を利用の商業並に船運の盛況

チ滿洲國林産業の實況

リ綿羊放牧の實況

ヌ蒙古包と駱駝

ル滿洲鑛産工業の景況

右拾壹場面共背景に配するに切抜模型を以てテオラマ風となし各種色電球を用ひて照明す

## 断じて寄附の迷惑は掛けぬ

主催者伊東一氏が

### 心意氣を語る

右に關し伊東一氏は語る

「昨年滿洲旅行中に得たヒントと時節柄國防強調の必要を痛感して今度の博覽會を開く事になつたので

**最初**は町の主催にして貰ふ積りの處種々の事情で結局私個人の手を委ねられるに至つた次第です、従つて思ふ儘に自分の氣持を織り込んで此の催しに終始する事が出来ずから反つて面白いものになるかも知れません、ただ

**此の催**に依つて幾分なりと郷軍に貢献が出来れば満足の内願ですから一切寄付金等の御迷惑は一般に

## 美味! 芳醇!

### 美味! 芳醇!

為め豫定より遅れたが雪解けを待つて工事を急ぎ三月一杯には九年度工事を終り更に十年度も延長工事が繼續されると

**十二校研究会** 本郡第三區平町外十一校の研究會は來る二十八日午前九時から内郷第一校に於て開かれると

## 宗正らひた

山崎合名會社  
電話一〇番

## 看護婦急派の求めに應じます

平町南町  
看護婦急派  
の求めに應じます

## 平看護婦會

平町南町  
電話三〇七番

## 上遠野地内水路開鑿

鮫川水利組合が九年度工事として工費七萬六千圓を投じ上遠野村工瀬地内に着工中の水路開鑿工事は降雨の

# 炭礦労働者

## 一萬七百六十餘

### 平署管内の大激増

平署が最近調査した本年一月現在の郡下各炭礦労働者数は磐城四千三百五十名、入山二千三百四十九名、古河千二名、萩原七百九十三名、隅田川六百二十九名、小野田四百四十七名、白水の壽三百七十七名に其他小炭礦を合せ總計一萬七百六十七名に達し昨年比で倍と磐城、入山は各六百名、古河百五十名の各増加を始め管内全般に亘つては二千四百と云ふ大激増となり炭礦界の活況を裏書して居る

### 卒業式を

#### 一日繰上

平町第一、第二、第三の各小學校事務協議會は来る二十六日午後一時より第二小學校會議室に開き地久節、陸軍記念日、修卒業證書授與式に關し種々打合せするが例年舉行して三年二十五日の證書授與式は今年日曜日に當る所から二十三日に繰り上げる由

# 海軍志願に

## 平町の合格四名

既報本郡下本年度海軍志願兵検査は去る十六日より三日間横須賀鎮守府軍醫大佐益田實氏執行したが本年の志願者は二百十三名で昨年より四十三名を増し採用者は四十五名と決定した、尙平町志願者十九名の内左記四名が合格し合格率は大体昨年同様である

### 自動車検査場

#### 敷地無償貸與

濱三郡の自動車検査場は八

幡小路舊警中グラウンド跡西方百五十坪の水道用地に設置する事となつたが平町には本日午前十時より土木委員及び水道委員を招集右の敷地無償貸與に關し協議の結果是れを承認した因に同検査場は建設の曉平町に寄附し一切の維持經營は平町が當る形式になると

### 長崎火防組が

#### 大國旗塔建設

#### 鳥小屋祭りの純益

平町長崎町火防組合では鳥小屋祭を主催し寄附金や賽

錢の收入五十九圓七十錢から支出の卅圓十三錢を差引純益廿八圓九十七錢を以て尼子稻荷境内にマスト式の大國旗塔を建設する事になつた

### ガソリン車

#### 停留所陳情

#### 町村長協議

既報本年度より平署を中心として實施されるガソリンカー運轉に就いて来る廿三日午前十一時より平町會議事堂に關係町村たる湯本、内郷、神谷、草野、大浦、赤井、好間の各町村長參集

### 駈落した亭主に

#### 離婚請求の訴訟

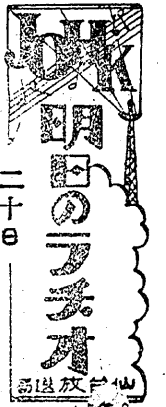
#### 十五年間も音信がない

平町字下川字一八目下福島市腰ケ濱字五老内町八加藤高則氏方無職三浦キン(四八)さんは此程情婦と共に行衛を晦した夫三浦長三郎(五九)を相手取り今十九日平支部に離婚請求の訴を申立たが理由は夫婦の間に一男二女あるに拘らず亭主の長三郎は酒色に身を持ち崩し大正九年二月頃何處の者とも知れぬフワ子と呼ぶ情婦と共に何處へか姿を隠した儘行衛知れずとなり其の後十五年間諸方を探したが分らず音信もないので遂に此の訴訟を起すに至つたものである

### 紹介事項

#### 出張打合

平職業紹介所の四家所長、神長倉書記の兩氏は昨十八日より小學兒童の職業指導並に婦人身身防防止、出稼人の照會等に就き左記各村小學校及び役場に出張打合せと



明日のラジオ

今晩も明日も北西の風天氣良し

### 今晩の部

後六、〇〇 子供の時間  
名作物語「ピノチオ」(三)  
東京放送童話研究會  
後六、二五 英語講座(三)  
の(一) 深瀬基寛  
後七、三〇 講演「最近我國の機械工業の發達」石川登喜治

後八、〇〇 尺八と俚謡  
菊地淡水也  
後八、二〇 詩の朗讀 川路柳虹  
後八、四〇 小唄 藤村孝  
後八、五五 浪花節「壺坂寺お里澤市物語」吉田駒之助  
後九、三〇 時報 ニュー

### 夜の街を

#### 泥的物色中

#### 平署に捕る

泉村字瀧尾生れ住所不定無職崎崎要吉(三三)は昨十八日夜十時頃新川町地内を徘徊中舉動不審で平署に引致取調た處舊臘中警崎村字西郷農伊藤兵助方に忍入り現金五圓を窃取逃走した外白米現金等の餘罪二件を自白した

### ラヂオの診査

#### 仙臺放送局は三月中郡下で左記の如くラヂオ機械の無料診査所を開く

(三月十日)好間村二本松電氣散宿所(十一日)泉村植田水力散宿所

### 好間剣道寄附

好間村中好間青年分團は去る十七日夜同村第一小學校に映

### 明日の

氣象通報 番組豫告  
前七、〇一 實用語講座「假名文發生以後の文章」玉井 幸助  
前七、三〇 朝の修養 法學博士清水 澄  
前八、〇〇 婦人講座「圖案の手ほどき」II 木村 和一  
前八、一〇 練習艦隊遠洋航海出航實況(横須賀軍港より中継)  
後八、〇五 漫談「閑散無雙」丸山 章治  
後八、三〇 家庭講座

### 磐中演習明日

既報今十九日行ふ筈であつた磐中四年生の野外演習は都合に依り明日に延期された

### 神谷料理講習

神谷村農會は来る廿二、三の兩日同村小學校に料理講習會を開く

### 不納者を留置

平町七丁目四六土木業草野誠次郎(三九)は去る七年十一月五日賭博罪に依り平區才判所から略式罰金四十圓に處されたが未だ納めないで今十九日勞務場に留置された

### 學年末の行事

平第一小學校は明日二十日午後一時より職員會を開き學年末の行事を協議すると

### 下田橋が竣工

小川村大字上小川字館石地内下田橋の架設工事は昨年十月

### 平町人事

△飯炊婦 十七迄 尋卒  
△給料面談  
△粕ヶ夫 三十迄 月十二  
△女中 十七才 尋卒 月六七圓  
△回職を求める方  
△土工夫 三十四才 尋卒  
△機械工 二十二才 尋卒  
△探炭夫 二十四才 高卒  
△店員 二十二才 高卒

### 平町人事

△下河原二 仲本季一氏長  
△女子子  
△七軒町 羽田金之助氏四  
△氏鶴子  
△田町五五 齋藤哲氏長男  
△白銀町一〇 丸山德平氏  
△二男令泰





# 明治太平記

(作) 寺島征史  
(畫) 野口溥

第五十六回

## 助太刀商賣 (七)

「商賣づくでふの方あたしの仇討に助勢してくれるといふのなもの」  
「商賣づく? ... 何が商賣づくなンぢや」  
「仇討の助太刀を營業にしてるひとなの。だから、人身買業者のあんたよりも随分たよりになるわよ」  
井手は、苦々しく舌を鳴らした。大志賀はニヤリ笑った。

「おい、ぜげん、すでにおぬしの信用は地に墜ちてしまった。聞かるとは、おとわは牛を馬に乗り換へて、おれを萬事たよりにしてをるぞ。そのまゝ、すぐと歸るがよい」  
この毒舌が、井手の血を逆流させた。  
「ようし——」  
井手の右手に、いつのまにか短銃が握られてをつたその筒先をぐいと大志賀の胸板へつけた。  
「ハ、ハ、飛道具だな」  
「失せろ! 一刻もこの室に居ることをゆるさぬ。出てゆけい」  
引金に指先が觸れた。面白い、一發ズドンとや



「いや、卑怯とは、そんな飛道具を持つ方をいふのぢや.....が、よい。一發でされいさつばり姿から消えてゆくおれは幸福だが、あとに残つたおぬしたち二人は迷惑するぢやろ。せつかくのおとわの仇討がフイに成るばかりか、銃聲で世

「おとわ」  
「えッ!」  
「この男を追ひ出せ」  
筒先を向けられ、眞蒼になつたおとわだが、しだいに平靜にかへり、はてはえん然と笑顔さへつくつた。  
「オホ、おぬの命に命にしたがはなかりや殺す氣

つて貰はうか、南蠻渡りの短銃の味も格別かもしれないぞ。やつてみてくれい」  
大志賀は、突き出した胸をポンとたいてみせた。  
「ようし——」  
「が、待て」  
「卑怯だぞ」

問を騒がしたら政府筋のくろがおぬし一人の軽卒で明るみへさらけ出されてしまふだろ」  
「.....」  
「さア、それでよいなら一思ひにやつてくれ、未練のない浮世を一刻も早く去りたい俺ぢや」  
「.....」  
「どうした、短銃の弾丸がしめつて役立たずか、それとも引金が錆付いてをるか」  
井手は、短銃の突先を大志賀の胸から、おとわの方へ移した。

「もちろん」  
「おや、やつて貰ひませう.....ねえ、助太刀屋さんいつそふたり一緒に殺させようか。きつと、ひとは心中とみるわ。ホ、ホ、」  
「うむ、面白い。ホテルの一室で、洋妾おとわと、浮浪人との心中か。い、浮世話の種ぢや.....おいせげん、一緒にやつてくれ」  
井手は口惜しさうに下唇を血の出るほど噛んだ。  
「撃て——どうした?」  
大志賀はせき立った。

店主か店員  
を連れて行  
かれる  
正シイ食堂  
正シイ喫茶  
正シイ酒場  
平・田町  
レストサロン  
電二三番

貸切の御用命は!  
電話六四〇番  
尼子タクシーへ  
是非お願いいたします  
遠乗りには特に御相談に應じます

一、齒科一般 保存科補綴科 繼續架  
工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科  
一、口腔外科 一、レントゲン科  
中野齒科醫院  
院長 日本齒科 醫學士 中野 憲次  
日本齒科 醫學士 西川 誠  
平町田町(松月堂向ヒ)  
電話 五〇九番

會葬御禮  
昭和十年二月十九日  
江口軍二  
外親戚一同  
荆妻キン儀永らく病氣療養中の處藥石効無く十一日午前十時十分死去致候間此段御通知申上候  
追而葬送の儀は來る二月二十日午後二時自宅出棺半町字新川町照岸寺に於て佛式相營申候  
昭和十年二月十八日  
外親 戚一同  
佐々木喜平

丹野齒科醫院  
丹野 淳夫

夜間診療  
胃腸病科 內科  
花柳病科 性病科 皮膚科  
性病科 皮膚科  
院醫科性胃村松  
(番七〇一電町南町平)